



Title	関係節でのgustar構文
Author(s)	長谷川, 信弥
Citation	Estudios Hispánicos. 1995, 19, p. 39-45
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97928
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

[研究ノート]

関係節での *gustar* 構文

長 谷 川 信 弥

0. いわゆる *gustar* 構文は、日本語の「～が好きだ」との構文の違いや出現頻度の高さから、スペイン語初級教科書にも独自の項目があてられている場合が多く、対象研究もなされている。⁽¹⁾また、同じタイプの構文をとる動詞をまとめて「向き違いの動詞」⁽²⁾とよばれたり、《*sujeto de cosa*》の動詞などとも呼ばれている。

本稿では、*gustar* が関係節に現れる場合、特に(1)や(2)のように先行詞がこれの間接目的語となっていて、弱形代名詞が節内にある場合、つまりこの弱形代名詞が重複されている場合に注目して、資料体によって調べた用例を検討してみたい。⁽³⁾

- (1) *Elena es una chica que le gusta mucho el cine.*
- (2) *Creo que a los que les gusta viajar tienen comúnmente el mismo sentimiento.*⁽⁴⁾

また、弱形代名詞の重複構文との関係や他の向き違い動詞との関係について考え、この構文のさらなる理解への中間報告としたい。

1. 上に挙げた(1)の場合、先行詞 *una chica* は *gustar* の間接目的語なので、関係詞は *a quien* などになるはずで、とすると節内の *le* は余剰であるということになる。しかし、後にみるように *gustar* に関しては、余剰だとはいえないほど現れている。

まず、余剰代名詞についてのこれまでの記述をみると、Butt & Benjamin (1988) は、口語において特に非制限用法の関係節で現れるという。宮本 (1975) は余剰代名詞構造について詳細な記述をおこなっているが、余剰代

名詞が関係節のなかにある《内部二重構造》で、間接目的の時には、(3b)のように、これを欠くと容認性が低下すると述べている。

(3a) *Mirábamos a Juan a quien ya nada le dolía.*

(3b)?**Mirábamos a Juan a quien ya nada dolía.*

また、堀田(1982)は関係節内での代名詞の重複については扱っていないが、Poston(1953)について言及して、間接目的語が動詞の前にあるときは、非重複形は非常にまれであると述べている。これを関係節に当てはめて考えると、先行詞の間接目的語は関係節内の動詞に対して必ず先行しているわけで、重複形が普通となってよいであろう。また、関係代名詞が動詞に先行していると考えても同じである。この点については、*gustar*以外のこのタイプの動詞についても用例を見るこにする。

山下(1986)は、代名詞重複を文成分の情報という観点から考察している。それによると、直接目的語が動詞に前置される場合、情報価値が低いときには(4)のように重複される。

(4) *A ella la vimos en la estación.*

間接目的語の場合、特に口語では情報価値に関わりなく、弱形代名詞が重複される結果になるとしている。

2. *gustar* やこのタイプに属するとされるいくつかの動詞についての資料体からの用例を検討する。

調査の結果の表示は次の通りである：

- ①：その動詞の全出現数
- ②：①のなかで、弱形代名詞を伴っている数
- ③：①のなかで、その動詞が関係節に現れている数
- ④：③のなかで、つまり関係節に現れていて、弱形代名詞を伴う数
- ⑤：④のなかで、間接目的格の名詞が先行詞である数

2.1. 口語資料体 *EL HABLA DE LA CIUDAD DE MADRID*⁽⁵⁾ (以下ENC) において *gustar* の出現数は次の通りとなった：

gustar ①: 350 ②: 349 ③: 37 ④: 37 ⑤: 5

これからわかるように *gustar* は1例(②-①)を除いて間接目的格の弱形代名詞を伴っているという大きな特徴が挙げられる。わずかに次の(5)のみで弱形代名詞が現れていない。

(5) *en otros casos, gustan más las mujeres médicos que los hombres.*

[ENC8-82]

この例では、好きか嫌いかの「経験者」⁽⁶⁾を問題にしているというよりも「対象」⁽⁷⁾を比べているために、間接目的格の代名詞が現れていないと考えることができよう。つまり、「経験者」をあまり問題にせず、より総称人称(generic person)的な「経験者」を想定しているために弱形代名詞を用いないでいる、という説明ができることになろう。いずれにせよ、弱形代名詞を用いる場合が圧倒的に多いことが、この *gustar* についていえる。

また、弱形代名詞は伴っているが、「経験者」である名詞が前置詞 *a* を伴っていない例が2例(6)(7)見つかった。

(6) *El padre le gustaría que hiciera Farmacia o Química,...* [ENC12-455]

(7) *la gente no le gusta leer.* [ENC17-249]

gustar の構文では「経験者」が統語的に主語になることはできないが、これらの場合の *el padre*, *la gente* は主語の位置に現れており、また経験者が主語となることも統語上問題ではなく、いわゆる経験者=主語の構文との混合の結果であるということができるのではないだろうか。これが口語体の資料であるということから考えても、起こりうる文であろう。⁽⁸⁾

さて、関係節に現れている37例では、すべて弱形代名詞を伴い、うち5例が間接目的語を先行詞とする関係節であるが、以下(8)-(12)に示すようにすべての例において節内で弱形代名詞が重複する形で現れている。

(8) *Una persona que sabe volar o que quiere saber volar, y que está tranquilo, que le gusta el aire,...* [ENC1-174]

(9) *A los que les gusta el deporte...* [ENC4-431]

(10) *...tienen una serie de cosas de...de todo tipo, o sea, al que le gusta la música, pues puede ver lo que quiera y oír lo que quiera.*
[ENC9-470]

(11) que hay gente que le gusta mucho y otra que no le ha convencido demasiado. [ENC20-64]

(12) No, no hay mucha gente que le gusta mucho, o sea. (ENC20-488)

(9)は(2)のようなタイプであると思われるが、この後に動詞が続いていない。 (10)も同じタイプのもので *al que*～が名詞節として働き、 *pues* があるものの *puede ver* の主語となり得ていると考えられる点で(2)のタイプとの共通性が認められ、前置詞句の名詞的用法の観点からの興味も呼ぶものである。

さらに、戯曲と時事文の資料体⁽⁹⁾から得た例は以下の通りとなった：

gustar ①: 34 ②: 34 ③: 5 ④: 5 ⑤: 1

関係節で弱形代名詞が重複しているのは、わずかに次の1例であった。

(13) Otros adeptos son los profesionales liberales, a los que les gusta viajar en grupo. [PAISSL69, p. 123-90]

この例の場合の *a los que* も(2)のタイプと考えられ、*gustar* が間接目的格の弱形代名詞と共に起する例が圧倒的に多いことから、関係詞も間接目的格となって弱形代名詞との統語的整合性を求めているものと説明できよう。

2.2. *gustar* と同じタイプの構文として挙げられている一連の動詞について、間接目的格の弱形代名詞との共起がどの程度みられるかを *faltar*, *doler*, *interesar*, *encantar*, *agradar* について、*gustar* の場合と同じ資料体で調べた。

a. *faltar* ①: 41 ②: 17 ③: 8 ④: 3 ⑤: 0

faltar では(14)のような弱形代名詞を伴わない例が多くみられ、*gustar* とは異なる。

(14) Pero lo que falta en esta casa no hay dinero que pueda pagarla.

[CB-1024]

b. *doler* ①: 8 ②: 7 ③: 0 ④: 0 ⑤: 0

doler は用例が少なく、確かなことはいえないが弱形代名詞を伴わない例(15)では、内容から総称人称的であると考えられよう。

- (15) *Cuando duele la espalda en el trabajo: ponerse de pie, pegado contra la pared y estirar brazos.* [PAISSL69, p. 73-104]

c. *interesar* ①: 44 ②: 38 ③: 11 ④: 8 ⑤: 0

interesar は弱形代名詞を伴わない場合もみられ、*gustar* と同じタイプのものであるかどうかは微妙なところである。関係節で現れている例のなかで弱形代名詞を伴っていない例は(16)-(18)のように3例とも *lo que* である。

- (16) *Dice la leyenda, que es lo único que interesa en este caso...*

[PAISSL69, p. 30-37]

- (17) *...creo que es lo que más interesa.* [ENC2-375]

- (18) *si lo que interesa es que hable usted, no yo.* [ENC16-516]

d. *encantar* ①: 24 ②: 24 ③: 3 ④: 3 ⑤: 1

用例の総数が少なく、*encantar* は直接目的格の弱形代名詞をとるという点では *gustar* と異なるが、弱形代名詞との共起傾向を考慮すると同じタイプに属すると考えられよう。うち、⑤にあたる1例は(19)であるが、*hombres* を先行詞と考えることができよう。

- (19) *y conozco hasta hombres que es que les encanta el comprarse libros de cocina y hacer recetas a cual más exótica, y cosas así.* [ENC20-495]

e. *agradar* ①: 6 ②: 6 ③: 1 ④: 1 ⑤: 0

意味的にも *gustar* に最も近いとみられる *agradar* も用例が少ないが、*gustar* と同じタイプに属すると考えられるようである。⑤にあたる例はみられなかったが、④のように関係節で現れる例(20)は先行詞が主格である。

(20) Pero, claro, la especialidad de Psicología es una cosa que me agrada.[ENC2-216]

3. これまでの調査をまとめると, *gustar* は高い頻度で間接目的格人称代名詞を伴い, これが関係節で先行詞が間接目的格でも重複される結果となっていることがいえよう。これは *A mí me gusta ~.* の *a mí* のような前置詞句が動詞に先行する場合と同じであると考えることはできるが, これがなくても弱形代名詞は現れることから, *gustar* の統語的特徴として挙げができる。また, (2)のような前置詞句の名詞的用法もみられる点がこの動詞の弱形代名詞との共起の強い傾向を示している。

また, *gustar* と同じ統語特徴を有する動詞に *agradar* や *encantar* を挙げられようが, さらに用例を増やして考察することが必要である。

※本稿は1994年10月1日, 大阪外国語大学でおこなわれた関西スペイン語学研究会例会での口頭発表をもとに加筆, 訂正したものです。その際, 貴重な御意見をくださった諸先生方に厚く御礼申し上げます。

注

(1) 堀田(1994)

(2) 興津(1981)にはこの構文をとるものとして, 次の動詞があげられている。

*直接目的語をとるもの

abrumar, aburrir, agobiar, agradar, ahogar, alegrar, angustiar, animar, apetecer, apurar, asombrar, asustar, atraer, cansar, coger, confundir, colmar, desagradar, divertir, disgustar, distraer, dominar, embargar, enajenar, encantar, enfadar, engañar, enloquecer, entretenar, entristecer, entusiasmar, estorbar, extrañar, fastidiar, humillar, impedir, importar, impresionar, impulsar, inquietar, interesar, lastimar, llenar, obligar, obsecionar, ofender, molestar, pasmar, perturbar, picar, placer, preocupar, ocupar, reventar, satisfacer, sofocar, sorprender, tranquilizar, vencer, etc.

*間接目的語をとるもの

caer, chocar, corresponder, costar, doler, entrar, faltar, gustar, ocurrir, pasar, quedar, (quitar), recordar, resultar, salir, sobrar, tocar, urgir, etc.

また, Poston(1968)は代表的なものとして, *agradar, bastar, convenir, dar ganas, doler, faltar, gustar, importar, interesar, pesar, quedar* を挙げている。

- (3) 資料体はすべて“研究用スペイン語テキストデータベース”を使用した。また、検索には Word Finder, Ver. 1.1(開発者 出口厚実)を使用した。
- (4) この例の場合 *tienen* の主語と考えられる *los que* が前置詞 *a* を伴い、名詞句としてはたらいている興味深い例で、あるスペイン人の書いた文であるが、このような文は比較的よくみられる。
- (5) 以下 [ENC] と表し、その後の数字は、*encuesta* のナンバーを示し、ハイフンの後の数字はテキストデータベース上の行数を表す。
- (6)・(7)ともに堀田(1994)による用語で、間接目的語で表現され、「好き」という心的反応を持つ人を意味の面から「経験者」、主語で表現され、その反応を起こさせるものを「対象」と呼んでいる。
- (8) 堀田(1994)は *gustar* の他動詞としての用法について言及しているが、資料体からの例では、*gustar* が自動詞として用いられていると考える。
- (9) 資料体は次の通り。本文ではカッコ内の略号で引用している。
- A. Buero Vallejo, *Historia de una escalera*. 1949.
 Alejandro Casona, *La barca sin pescador*. 1963. [CB]
 El País Semanal, num. 69. 14/VI/1992. [PAISSM69]
 うち、[CB] ではデータベース上の行数を表し、[PAISSM] は頁数とテキストデータベース上の行数を表す。

参考文献

- Barrenechea, A. M. y Orecchia, T. (1970) : La duplicación de objetos directos e indirectos en el español hablado en Buenos Aires. *Romance Philology*, vol. 24-1, pp. 58-83.
- Butt & Benjamin(1988) : A New Reference Grammar Of Modern Spanish. Edward Arnold.
- Fernández Soriano, O. (1993) : Los pronombres átonos. Taurus.
- Fish, G. T. (1968) : The Indirect Object And The Redundant Construction. *Hispania*, vol. 51, pp. 862-866.
- 堀田英夫(1982) : スペイン語代名詞の重複構文について. 宮城昇教授還暦記念論文集, pp. 101-118.
- (1994) : スペイン語 GUSTAR 構文と日本語「好き」構文. 愛知県立大学外国語学部紀要, 第26号(言語・文学編), pp. 203-217.
- 宮本正美(1975) : スペイン語余剰代名詞構造. 関西外国語大学研究論集, 第22号, pp. 225-261.
- 興津憲作(1981) : 中級イスパニア語文法. 創元社.
- Poston Jr., L. (1953) : The Redundant Object Pronoun In Contemporary Spanish. *Hispania*, vol. 36, pp. 263-272.
- Seco, M. (1986) : Diccionario de dudas y dificultades de la lengua española. 9^a ed. Espasa Calpe.
- 山下好孝(1986) : 弱勢形代名詞重複構文について. HISPANICA, vol. 30, pp. 111-122.

